



福島県立郡山北工業高等学校

同窓会報 第62号

2012



激励に来校したサッカー日本代表前監督
岡田武史氏からもらったメッセージカード
2011.4.7撮影 避難所にて



避難所になっていた第一体育館に寄せられたお花のメッセージ
2011.3.23撮影

CONTENTS

会長あいさつ	2
校長あいさつ、新会員のことば	3
平成23年度同窓会定期総会報告	4
支部だより	5~6
特集 2011.3.11~ パソコンの奇蹟について	7
母校近況 (生徒会だより、部活動大会成績報告)	8
母校近況(進路状況)	9
平成22年度決算報告・会務報告	10
平成23年度同窓会役員名簿・一般寄付者名	11
特集 2011.3.11~ ゴルフコンペ・事務局だより	12

郡山北工HP <http://www.koriyamakita-th.fks.ed.jp/>

定期総会のお知らせ

■平成24年度定期総会を下記のように開催いたします

- 日 時／6月30日(土) ●午後5時00分より 総会 (予定)
●午後5時50分より 懇親会 (予定)
- 場 所／ホテルハマツ 郡山市虎丸町3-18 ☎024-935-1111
- 会 費／5,000円(平成23年度卒業生は3,000円)

※詳細については事務局へお問い合わせください
同窓会事務局(郡山北工内) TEL.(024)932-1199 FAX.(024)935-9849
※同封の振込取扱票通信欄の総会参加費に○をつけて参加費を納入して下さい

■東京支部総会

- 日時／平成24年6月2日(土)
- 場所／上野精養軒(予定)

■日立支部総会

- 日時／平成24年7月
- 詳細日時・場所は調整中

会長あいさつ

同窓会会長 古川 弘



平成24年の新春は全国的に素晴らしい天候のもと幕が上がりました。同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。また、常日頃より同窓会並びに本校に対し物心両面にわたり多大なるご貢献をいただき誠に有難うございます。衷心より感謝と御礼を申し上げます。私は

生は2万3千余名を教え、同窓生の代表としてその責任の重さを痛感すると同時に特に若い世代の皆様には魅力的な同窓会はどうあるべきか常に問い掛けてゆきたいと考えております。私は昭和40年度郡工建築科を卒業させていただきました。現在も建築科は1クラスですけれど3年間を共にしたクラス仲間、担任の酒井先生とは現在も親交を持ち続ける事が出来、仕事面でも大いに励みになっております。昨年3・11未曾有の東

日本大震災が発生してしまいました。多く死者、行方不明者を数え特に我が福島県は大地震・津波・原発事故・風評被害と今も4重苦に悩まされています。安全神話が崩壊した東京電力福島第一原子力発電所の事故により約15万人の方々、避難を余儀なくされ、今尚

多くの方々が避難地での生活や仮設住宅での生活、いつ帰られるかわからない故郷の事を考える時、大震災後の福島県ひいては災害の多い日本はどうあるべきか皆様と共に考え、英知を結集して一步一步確実に前進しなくてはなりません。さて、本校の歴史をもう一度振り返ってみますと、昭和19年国策により郡山商業学校を郡山工業学校として機械科・工業化学科が誕生しました。終戦後の22年に福島県郡山工業学校に改称、24年には桃見台の新校舎に移転（現在はあさか開成高校）、29年には県立移管により福島県立郡山工業高等学校と改称しました。そして38年には福島県立郡山西工業高等学校が誕生しました。社会環境の変化に伴い52年には統合され福島県立郡山北工業高等学校として八山田に新たなスタートを切った訳です。

心から歓迎申し上げます。大震災後の復興元年として皆さんは何を思いますか？ マイナスからではなくプラス思考で是非ともスタートを切って欲しいと願っております。数年続くと見られる復旧・復興、更には原発の廃炉までは40年かかると言われる厳しい環境の中で若い皆様の活躍なくしては『うつくしまふくしま』の復興も日本の再生も無いと断言できます。この様な中、実社会へ向けて飛び立つ皆様は工業人として常に夢と希望を持ち続け努力を惜しまず頑張っていただきたいと思えます。時には大きな困難に遭遇することもあるでしょう。そんな時は故郷を思い出し本校で学び培った知識と忍耐力で向上心を更に発揮して欲しいと願っております。

私の新会長としての初仕事は昨年11月26日の水戸支部総会の出席でした。多くの参加の皆様と更には東京・日立支部の役員の方々とお会いすることが出来ました。浅野新会長を中心にがっちりスクラムを組まれた体制を見る時、母校愛と在学当時の若き日を懐かしく思い出される微笑ましい空気を感じ取る事が出来、大変心強く満足して帰って参りました。尚、今年の定期総会の会場は6月30日（土）ホテルハマツに決定させていただきました。同窓会の『絆』を更に強固にするためにも多くの皆様の出席をお待ちしております。終わりになりましたが会員各位並びに関係者の皆様の益々のご活躍とご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。



校長あいさつ 「北工の現状」

校長 佐藤 和紀



○北工は素晴らしい

同窓会の皆様方には、日頃より当校の教育活動にご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。

私は平成二十三年八月一日に当校に着任した。三月の東日本大震災の影響を受けて四ヶ月遅れの人事異動であった。当校は県内でトップクラスの工業高校であると評判が高いため、一度は勤務してみたいと思っていた憧れの高校である。念願が叶ってとても嬉しい。

当校は進路指導、進学指導、生徒指導、資格取得指導としてロボット競技大会やものづくりコンテストなどの工業の専門分野での技術力が極めて高いと県内でも評判の高校である。生徒は意欲的で教職員の意識も

高い。

○学校運営ビジョン

私の学校運営の方針は「生徒の夢を実現させる」である。生徒は進路実現という夢を持ち、学校はそれを支援する。学校は生徒の夢実現のために社会に通用する人材を育成する。生徒の夢実現のための具体的な方策としては次の三つである。(一) 確かな学力を育む。わかる授業、家庭学習、資格取得に力を入れる。(二) 進路実現。就職先の拡充、大学進学をサポートを徹底する。(三) 豊かな心を育む。身だしなみ、健康と安全教育を推進する。

○進路状況

平成二十三年年度の進路状況は就職、進学共に健闘している。今年度の福島県内の高卒求人数は、過去十年間の平均値の約五十%しかない厳しい状況である。しかし、当校の生徒たちは良く健闘して平成二十四年一

月十五日現在の就職内定率は九十六%である。この内定率は県内の高等学校ではトップクラスである。大学進学では国公立大学に多くの合格者を出している。地元元会津大学のコンピュータ理工学部五名、福島大学共生システム理工学類二名、山形大学工学部に一名、茨城大学工学部に一名の合計九名の生徒が公募推薦を利用して国公立大学に合格している。

○生徒の活躍

今年度東北大会以上に出場した部活動を紹介する。男子ソフトボール部はインターハイ県大会と新人大会で優勝して全国大会に出場。ロボット競技大会福島県大会はベスト四を当校のチームが独占して全国大会出場。高校生ものづくりコンテスト福島県大会では電子回路組立部門で優勝して東北大会出場。福島県発明展では放射線の高いホットスポーツを探す装置を開発して福島県知事賞を受賞し、全国大会に出展。吹奏楽部は全日本マーチングコンテスト東北大会に出場。このように各部活動や工業高校の専

門分野で活躍している。

○終わりに

現在、生徒は大変落ち着いた学校生活を送っている。また、学校全体に活気があり、資格取得、部活動、進

新会員のことは



化学工学科 佐藤 巧真

今年から私達は郡山北工業高等学校同窓会の一員の仲間入りさせていただき、三年間を過ごした学舎に別れを告げ、一人ひとりがそれぞれの新しいステージへ旅立つということに、大きな期待と嬉しさに胸が込み上げてくるようです。不安はない、と言えは嘘になりますが、北工での日々が私達の自身となり、極端に不安だということはありません。必ず乗り越えていきます。

昨年は、東日本大震災により困難な一年となりました。各所に大きな傷跡を残し、今でも機能していない街や施設が多数あります。放射能汚染により、避難する人も増え、様々な企業の

路実現に向けて生徒、保護者、教職員が一丸となって突き進んでいる。これも全て同窓会の皆様に陰で支えられているからであり、深く感謝申し上げます。

本社、支社、工場が停止または撤退となってしまいました。そのことにより県内企業の求人数が減少し、就職氷河期といわれる時代に拍車をかけるように、就職活動に影響が出てしまいました。そんな中でも北工の就職率が伸びたということは、同窓生の皆様をはじめとする地域の方々のお力添えがあったからこそだと思います。また皆様が創り上げてくださった北工ブランドの力もあり、私達は各々の進路を決めることができましたのだと思います。

これから私達は、北工の名に恥じぬよう、よりよいものとするべく日々精進していくことをここに誓います。まだまだ若輩者ではありますが、福島県をはじめとする故郷の復興のため、そして皆様の期待にお応えできるよう身を粉にしてがんばります。皆様のご指導、ご鞭撻、よろしくお願います。

平成23年度 同窓会定期 総会報告

平成23年6月25日(土) 午後5時から、ホテルハマツに於いて、平成23年度郡山北工業高等学校同窓会定期総会が122名の参加を得て開催されました。

「開会の言葉」

古川弘同窓会副会長の言葉で同窓会定期総会を開会しました。

「会長の挨拶」

増子久治同窓会会長より、会員の皆様からの寄付・物資等のご支援に対して御礼がありました。

続いて、「：副会長になったのが平成元年、三期六年就任いたしました。：それから三代目の会長として、五期十年務めました。その後二年は役を退いたのですが、もう一度戻つてくれと要請があり、その後二期四年になりました。通算で十四年になり、今期をもって退くことになっております。：」と退任にあたっての心情と、同窓会に対しての思いを話されました。



平成23年度同窓会定期総会
増子久治同窓会会長挨拶

「校長の挨拶」

兼田信男校長より、同窓会定期総会に対して、お祝いの言葉をいただきました。

次に「3・11 東日本大震災によって、学校が今どのようになっているか報告しないわけにはいかないと思います。三月十一日は、入試業務というところで、生徒は登校しない日でした。外周を見た範囲では、特に大きな損傷がないように見えました。：」

：校舎内の損害状況は、B棟の音楽室の天井が落ちそうになり立ち入り禁止、D棟の溶接実習室付近の廊下の柱に何か所かの亀裂、D棟二階の柱の一部は鉄筋が剥き出しの状態、第二体育館は筋交いが船のように曲折、E棟の筋交いも第二体育館同様に筋交いがメチャメチャで壁も落ちそうな状態、化学工学科のガラス器具がすべて破損、各科の測定器も破損、機械科の大型機械も動いてしまい。：

その後三〇〇名を数える、福島原発の避難者がぞくぞくと入って来ました。たくさんさんのボランティアの方々がお世話してくれました。本当に有難いことでした。それから終業式・離任式もなく、春休みになりました。入学式については、体育館が避難所になっていたので、使用できず教室ごとに入学式を行いました。前代未聞の入学式をやったということです。現在では、放射線量が気になるころですが、ほぼ平常の状態です。授業を行っております。なお、小高工業高校が閉鎖状態のため、サテライト校としての役目もしております。：現況をまずお知らせしました」と大震災での状況を述べられました。

最後に、同窓会総会を祝して話を結びました。

「支部長代表の挨拶」

各支部を代表して東京支部の八代英昭支部長よりご挨拶をいただきました。

「：東京支部の役員会において、前任の小沢支部長に代わり、私が東京支部長四代目として就任しました」と支部長交代の経緯を述べられました。続いて東京支部総会中止の経緯も話され、東京支部総会は平成24年の6月初めに開催すると説明がありました。

最後に、原発の収束が見えない状況ですが、北工同窓会の益々の発展とご参会の皆様方のご健勝を祈念し話を結びました。

「議長・副議長選出・書記任命」

事務局一任となり、阿部昇二事務局長より、議長に宗像恭一氏(郡工48建築)、副議長に田母神一吉氏(北工54建築)、書記には笹島貞夫氏(北工61電子)が提案され承認されました。

「議事」

平成22年度庶務報告は、阿部昇二事務局長より総会資料に沿って行われ、会務報告、新会員報告がなされた後、質疑を経て拍手を持って承認されました。平成22年度決算報告は、高橋由美事務局会計によって行われ、加藤和夫監事による会計監査報告の後、質疑を経て拍手を持って承認されました。

平成23年度事業計画案は、阿部昇二事務局長より提案され、質疑を経て拍手を持って承認されました。平成23年度予算案は、高橋由美事務局会計より提案され、質疑を経て拍手を持って承認されました。

続いて、事務局より①一般寄

付の御礼とお願ひ②役員改選にあたり、規約に基づき次の役員選考委員が提案され承認されました。

- ・宗像 俊郎 (郡工四〇機械) 郡工代表
- ・今井 久敏 (西工四六機械) 西工代表
- ・岩崎 洋一 (北工六一建築) 北工代表
- ・八代 英昭 (郡工三六電子) 東京支部長
- ・丸山 正一 (郡工四八電気) 日立支部長
- ・浅野 利光 (郡工三七建築) 水戸副支部長
- ・阿部 昇二 (郡工五一電子) 事務局長

別室に於いて役員選出が行われ、次の方々が拍手を持って承認されました。その後、増子久治会長の離任のあいさつと古川弘新会長から新役員の紹介がありました。



新役員

- ・会長 古川 弘 (郡工四十建築) ○新
- ・副会長 熊田 良治 (郡工四十電気) ○新
- ・副会長 伊勢野敏雄 (西工三三電気) ○再
- ・副会長 熊田 晃大 (北工五四建築) ○再
- ・監事 加藤 和夫 (郡工二六機械) ○再

- ・監事 石田 秀夫 (郡工三九定機械) ○新
- ・監事 柳沼 幸代 (郡工五一建築) ○再
- ・顧問 渡辺 達英 (郡工二四機械)
- ・顧問 滝田孝太郎 (西工四二電気)
- ・顧問 増子 久治 (郡工四二定電気)

「閉会の言葉」

熊田晃大同窓会副会長の言葉で同窓会定期総会を閉会しました。

「アトラクション」

増子久治前同窓会会長の講師紹介により、郡北工職員である化学工学科主任 佐藤正道先生が紹介され、「寮変天目茶碗の制作を通してスベシヤリ茶碗成への挑戦」と題し、前任校で数年間掛け、天目茶碗の制作とスベシヤリストの育成の両面から研究された内容を、苦勞話を含めながら興味深い内容で、貴重な講演がありました。

「懇親会」

伊勢野敏雄同窓会副会長の開会の言葉の後、増子久治前同窓会会長の挨拶、兼田信男校長の挨拶、来賓祝辞を代表してPTA会長鈴木寿弘様よりご祝辞をいただき、水戸支部顧問山崎功様の乾杯のご発声により懇親会に入りました。

また、多数参加の中で行われたゴルフコンペの表彰式も行われ、参加者は和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。最後に熊田晃大同窓会副会長の言葉で懇親会を閉じました。

支部だより

東京支部



東京支部長
八代 英昭

まずはじめに、新しく会員に加わった今年の卒業生に歓迎の意を表します。

無事に就職あるいは進学されたみなさん、郡山北工業高等学校での学校生活最後の1年間は大変な思いで送られたことと推測いたします。

昨年1年間を振り返ると、3月の東日本大震災を抜きに語ることはできません。地震そのものと、その地震による津波の想像を絶する被害、さらには福島第1原子力発電所の壊滅的な大事故によって、我が郷里は未曾有の災難に見舞われ心が痛む思いでした。特に原子力発電所の事故が発生した時、テレビで爆発の白煙が映されたあの瞬間、大変なことが起きたかと思いましたが、政府が事故の対応を発表しておりましたが、ほんの一部しか伝えていないと感じておりました。事故後数カ

月後になり、事故調査委員、検証委員会から驚くべ発表がなされました。ベント操作が手間取ったことについて、現場には長時間の全電源喪失を想定した対応マニュアルがなく、よって手動によるベント手順も整備されておらず、設計図などから新規に手順を作成しなければならなかったこと、全電源喪失のためベント操作用バッテリーが必要とされた際、機材形式の連絡に不備があり、本社が調達し発送した多機種が一斉に搬入され、必要機種の選別に手間取ったり、必要な機材がJピレツジに誤発送送されて、時間をロスしたことなど、本社の援護が乏しく、突然の非常事態に現場側の混乱も多かったとの推測でした。1号機の水素爆発については、圧力容器が損傷したことで建屋内に充満した水素が誤って原子炉建屋作業スペースへ排気してしまつたなど、諸説あるようですが、多忙な現場では誰も水素爆発まで予見できなかったとされています。また、非常用排水器等の取扱方法を十分に理解していなかったために、手動停止してしまつたこと、

仮に非常用排水器を手動停止しなかった場合、冷却効果によりメルトダウンは7時間は遅れていたとされ、その時間を使い有効な対策を進めれば、原子炉は壊れなかった可能性が高かつたとも指摘されています。その非常用排水器手動停止の報告は中央制御室から対策本部へ伝えられたが、原子力発電所幹部は誰もその重大な事態を認識できていなかったため、3月12日午後3時36分に1号機は水素爆発してしまいました。このことはまさに天災ではなく人災といえます。

東京支部の総会は2年に1度の開催で、昨年の会報で開催の通知してありましたが諸般の事情から中止とし、今年の開催となります。6月2日(土)に上野精養軒にて、開催いたしますので、会員皆様のご参加をお待ちしております。5月22日には東京スカイツリーの展望台もオープンとなりますので、ご見学後総会にご参加を計画されては如何でしょうか。

最後になりますが、母校と同窓会の益々のご発展とご繁栄とともに、皆様のご健勝と郷里の復興をお祈り申し上げます。

日立支部



日立支部長
丸山 正一

平成24年の新しい年を迎え同窓会会員の皆様のご健勝を、心よりお慶び申し上げます。日立製作所および日立関連会社の現役所員およびOBの方々が構成されている日立支部は、昨年は日立製作所創業百一年目の記念すべき年ということで、新たな次の百年に向かって飛躍して行こうという年でした。しかし、3月11日に発生した東日本大震災の影響を少なからず受けており、復旧・復興の一年となりました。日立支部の現役の方々は、電力・電気など社会のインフラを支える仕事をしていることもあり、自事業所の復興と同時に日本の社会インフラの復興に明け暮れた一年だったと思います。そのような状況の年のため、本来ですと現役およびOBの方々の会員同士のコミュニケーションを深める意味で毎年実施していた日立支部総会については、延期せざるをえない状況となつてしまいました。日立

支部は現在、会員数83名(内OBの方40名)で同窓会活動を展開しております。同窓会活動のメインは、支部総会、本部総会への参加が中心になっており、会員相互の交流の場を提供していくよう努力してきました。そのような状況下にある日立支部平成23年度の状況の一端を報告させていただきます。

- ① 日立支部総会について
例年ですと本部総会の開催に前後して毎年開催しており、今年度も当初は7月上旬に日立駅近くの東晩館で開催予定でしたが、3月11日の震災の影響で、日立支部の各職場および会員が居住する自宅、地域等が被災を受けたため、震災復旧・復興が最優先となりました。ギリギリまで、可能なら支部総会を開催したいという思いでしたが、最終的には今年度は延期を決めました。次年度は開催し、現役会員同士およびOBの方々、母校との懇親を深めたいと思います。
- ② 本部総会への参加
6月25日(土)に郡山のホテルハマツで開催されました本部総会および懇親会には、日立支部からは3名で参加させていた

③ 日立支部新人歓迎会

平成23年に日立支部に2名の新人が加入しました。例年は日立支部総会の席上で新人歓迎会を実施していますが、今年は震災の影響により支部総会を延期したため、震災復興に取り組んでいる状況下ではありますが、11月18日に新人歓迎会を実施いたしました。新人2名、顧問・支部役員5名、若手の支部会員3名の計10名と参加者は若干少なめの開催となりましたが、新人との交友を図ることが出来ました。新人の現状報告では、既に職場に配属され職場にも慣れた感じを受けました。支部会員、OBの方々も久しぶりの再会であったために、自己紹介を兼ねて現状報告をしていただきました。現役の方々はまだ震災復興に日々遅くまで仕事で頑張っているとの報告もあり、体には

十分気をつけるようお互いに確認しあいました。最後になりましたが、母校と同窓会の益々のご発展とご繁栄を、そして関係する皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

水戸支部



水戸支部長 浅野 利光

水戸支部は昭和34年に設立され、初代支部長の山崎功氏（現顧問）をはじめ2代目支部長の八代正雄氏（現顧問）とともに永年同窓会に貢献されました。この度、平成23年11月26日の水戸支部総会において新たに水戸支部長を拜命した浅野です。水戸支部では今年で52周年目を迎えております。前回の総会では50周年記念として記念誌を発行しました。関係各位の皆様方にはいろいろとご協力を賜り改めて御礼を申し上げます。先日の総会での懇親会では本部同窓会の会長・副会長および学校長をはじめ、事務局として東京支部、日立支部の役員の方々にご臨席

を賜りました。新たに就任されました同窓会本部の古川会長、伊勢野副会長と佐藤校長には初めての支部訪問でもあり、会員との懇親を深めていただくことができました。現在、会員の数は34名と減少しております。多い時は60名を数えていた時代もありましたが、諸先輩たちの活躍した時代が過ぎたいま、高齢化している現状はいつでも同じかと思っております。このような状況ですが、会員相互の親睦を図りさらに同窓生の絆を大切にしていきたいと思っております。



さて、3・11大震災では、私も福島県に郷里を持つ身としてこれほどまでに郷里福島を思い案じるときはなかったと思っております。福島の名を世界に知らしめたのが、原発事故のためとは誠に悔しい思いです。風評被害を含め4重苦・5重苦に遭遇している人々のニュースを見るたびに胸が痛むのを感じておりました。なんとか福島よ立ち上がれ、そして「うつくしまふくしま」に蘇って欲しいと願っております。今年度は世界的な不況に見舞われました。欧州ユーロ圏の金融信用不安に加え、円高・株安と大変な年となりました。さらに東日本を襲った大震災による経済不況などにより、私も水戸支部同窓会の会員も厳しい状況です。また、今回の大震災では茨城も大きな被害を受け、会員のなかにも罹災した方々は大勢おります。さらにこの地域でも風評被害がありました。福島におります被災された同窓生の皆様とともに、1日でも早く復興される日を願っております。



調査・設計・監理 一級建築士事務所
(有)古川 弘 建築設計室
 代表取締役・監理建築士 古川 弘
 〒963-8831 福島県郡山市七ッ池町18-8
 TEL (024) **925-5800**
 FAX (024) **925-5840**

国交大臣許可(特-21)第9138号 ISO9001 認証
 JQA-QM3974
株式会社 才才バ工務店
 代表取締役社長 大場 俊之
 本社/郡山市富田町字権現林3-4 TEL024-961-6500(代)
 FAX024-961-6501
 営業所/東京・白河

営業品目
 火災報知設備・構内交換電話設備・消火設備
 防火排煙設備・非常用放送設備・テレビ共聴設備
 消火器・防犯設備・以上に附帯する一切の業務
株式会社 田村通信防災工業
 代表取締役 増子 久治 (昭和42年度電気科卒)
 郡山市安積町荒井字下北井前4-1
 ☎ (024) 945-2882 FAX (024) 946-2875
 E-mail:tamura-t01@isis.ocn.ne.jp



D棟2Fにて
コンクリートの壁が崩れ鉄筋も切れている



原発事故で配達できない会報が戻ってきた

12Pに続く



避難所 2011.3.14撮影
3月12日から4月17日まで本校の第一体育館は
避難所になっていた



避難所 2011.4.5撮影



始業式 2011.4.8撮影
第一および第二の両体育館は使えないため格
技場で各学年ごとに行われた



進路指導室前廊下にて
2011.3.11撮影



情報技術科にて 2011.3.11撮影



図書室にて 2011.3.12撮影

特集
2011.3.11~

「パソコンの寄贈プロジェクト」

昨年の東日本大震災では、本校の実習棟にも甚大な被害がありました。特に電子科のパソコン（デスクトップ）は、机から落下して実習ができない状態になり、その状況を知った株式会社日立製作所営業統括本部営業企画部長の小林毅様より、日立電子サービズ株式会社首都圏事業部公共ソリューション事業部長の森川一信様を通して横浜支社より中古のノートパソコン65台の寄付の申し入れがありました。去る6月9日に、ノートパソコンを寄贈していただき、同日に関係者を招いて贈呈式が行われ、小林様、森川様よりご挨拶を頂戴しました。後日、秋葉原ダイビルにおきまして、株式会社日立製作所ならび日立電子サービズ株式会社へ感謝状の贈呈が行われました。

また、機械科には、日本工業大学より中古のワークステーションと三次元CAD（ソリッドワークス）システム25セットを、11月26日に寄贈していただきました。

あわせて、本校生徒の教育のために、末永く大切に使用してまいります。また、これまで以上に地域に親しまれ、福島県を代表する工業高校を目指し精一杯活動してまいりますので、関係者の皆様には、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

教頭 高梨 哲夫



寄贈されたノートパソコンで実習を行う電子科の3年生



贈呈式後に行われた関係者との記念撮影（校長室にて：2011.6.9）

生徒会だより

生徒会役員

校外活動について

生徒会顧問 鈴木 哲

生徒会役員の活動は、校内の生徒会行事の企画・運営はもちろんだこと、他校や異校種間との交流も図っています。本校では例年、生徒会長サミットに参加しています。生徒会長サミットとは県中地区高等学校の生徒会役員が年に2回集まり、お互いの生徒会活動の活性化を図るため、近況報告や討論会を実施しています。12月に行われた今年度2回目の生徒会長サミットについて紹介します。

まず、各校の近況報告では、今年度の生徒会行事が円滑に行われたかどうかなどが報告されました。中でも「仮設校舎で学校生活を送っている中で、例年盛大に実施している合唱コンクールは日程を変更し縮小して開催」「新入生歓迎会は縮小して実施」「例年、留学生を受け入れホームステイを実施しているが、今年中は中止」など、やはり震災・原発事故の影響が大きく、どの高校もその中で

夫をしながら最善を尽くして活動しているという姿が感じられました。

また、討論会では「校則について」というテーマに参加しました。参加者は校則や服装の基準などについて話し合いました。本校は厳しい基準や検査があるからこそ就職内定率の高さにつながっていると他校に紹介していました。

東北旅一第850号・福島県知事登録第2-102号

(有)東北観光ツーリスト

(貸切バス・旅行企画募集)
各手配・レンタカー

福島県郡山市並木4丁目1-1
TEL:024-938-8577 FAX:024-938-8579

のぼり、横断幕、バナー等 1枚からお作りいたします。

担当…三高(北工2期 電気科卒)



●総合印刷 ●マルチメディア ●ビジネスソリューション
株式会社
ヨシダコーポレーション

〒963-0724 福島県郡山市田村町上行合字北川田22-1
TEL.(024)942-0005(代) FAX.(024)942-2233
URL http://www.media-yoshida.co.jp

■FSC(CoC)認証...2005年1月20日取得
●FSC認証紙 ●植物油インキ ●水なし印刷

平成23年度 部活動大会成績報告

H24.1.31現在 上位成績のみ記載

全国大会

- ・ソフトボール部
全国高等学校総合体育大会 出場
国民体育大会ソフトボール競技 出場
- ・バレーボール部
国民体育大会バレーボール競技 ベスト16
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会 決勝トーナメント進出
- ・コンピュータ部
全国高等学校ロボット競技大会 2チーム出場 準決勝進出

東北大会

- ・水泳部
東北高等学校新人水泳競技大会 出場 岡部翔太
- ・ラグビー部
東北総合体育大会ラグビーフットボール競技 第2位 伊藤欣末 三瓶康太
- ・吹奏楽部
全日本マーチングコンテスト東北大会 出場
- ・機械部
全日本ロボット相撲東北地区大会 出場
- ・卓球部
東北高等学校卓球選手権大会 出場 ダブルス(星 勝文・芹澤圭介組)

県大会

- ・陸上競技部
福島県陸上競技選手権大会 兼 福島県総合体育大会
男子走り幅跳 (高校の部) 第3位 木目沢佑輔
- ・電子部
コンピュータアイデアコンテスト MCR (BASIC) の部
第3位 土屋航輔

地区大会

- ・柔道部
福島県高等学校新人体育大会柔道競技東南地区大会
個人の部73kg級 第2位 丸山竜司
- ・陸上競技部
福島県高等学校新人陸上競技大会県南地区予選
男子400mH 第2位 須藤 凌
男子棒高跳 第1位 佐藤 誠
男子混成八種競技 第1位 森合光成
- ・ソフトテニス部
福島県高等学校新人体育大会ソフトテニス競技県中地区大会
団体戦 準優勝
福島県高校インドアソフトテニス大会県中地区予選
団体戦 優勝
個人戦 準優勝 (橋本拓哉・飯村 圭ペア)

その他

- ・高校生ものづくりコンテスト2011東北大会
旋盤作業部門 出場 武田直人
- ・福島県高校生ものづくりコンテスト2011
電気工事部門 第3位 坂田久志
電子回路組立部門 第1位 前森貴史
化学分析部門 第2位 佐藤有紀奈
- ・電気部
高校生技術アイデアコンテスト全国大会
優秀賞 會田 光陽 細谷 宙叶 郡司 亘
全日本学生児童発明くふう展 発明協会会長賞
福島県発明展 福島県知事賞/郡山市長賞
郡山市発明工夫展 郡山市市長賞/郡山市議会議長賞/ラジオ福島社長賞
以上、會田光陽 細谷宙叶
コンピュータアイデアコンテスト
パソコン利用技術部門 優秀賞 會田光陽 細谷宙叶 郡司 亘
福島県高等学校文化連盟表彰 優秀団体賞

進路状況

「自立の第一歩」として

進路指導主事 遠藤 仁一

2学年生が事業所等で実施しているインターンシップは、今年で8回目となりました。忙しい中、引き受けていただいた事業所の皆様方には大変感謝しております。近年、若者の勤労観・職業観の変化、職業人としての責任感や使命感の欠如など、職業意識の希薄化が指摘されています。就職して3年以内に目的を持たないまま転・退職をする割合が高く、定着率や勤労意欲の低下が見られます。このため、キャリア教育の一環として、社会の一員としての自覚を持たせるために、事業所等で3日間のインターンシップを実施しています。短期間で生徒達が専門性や社会人としての意識を学べることは僅かですが、勤労経験に乏しい生徒達が、会社で働く大人を目標にすることへの関心が深まり、自分の将来を覗くことができるものだと思います。インターンシップを通じた感想のなかで、「朝礼をしている社員が誰も無駄話をせず真剣に参加していることに驚きました」と、学校の全体集会の様子と違った社会人の姿に自分たちの幼さを知り得たようでした。インターンシップ終了後、生徒にアンケートを行った結果、「勤労観や職業観が芽生え、働くことや職業への関心が高まった」こと、「自分の意志と責任で進路選択をしよ

うと思うようになった」ことを特に高く評価をしていました。生徒達にはこの体験をきっかけに社会への目が開かれ、こうした経験が「社会人としての自立の第一歩」となってもらいたいと思います。

さて、今年度の3年生の進路希望状況は、178名が就職、94名が進学となっております。東日本大震災や原発事故の影響で以前と違った出発点に立ち、進路選択も不安を抱いての選択となりました。特に目立ったことは、就職希望者が昨年より増加して、その中でも県外への就職希望者が多くなったことです。県内の企業は震災の影響で求人控えるだろうと敬遠したことが県外を希望する要因だと思われれます。今年度の就職内定率は平成24年1月15日現在で96%となりました。昨年の同時期よりやや劣ってはいますが、生徒の努力が実った成果となっております。また進学希望者は、大学と専門学校への進学がほぼ同じ割合で合格率は98%となりました。その中でも、国公立大学への合格者がここ数年間の中で最も多い9名となりました。その他の進学者も希望通りの大学・専門学校へ合格しております。

誰でも不安と希望を抱いて社会人になります。特に今年度の卒業生には、今後の困難を乗り越え災害の復興を支える一員として活躍することを期待しております。同窓生の皆様、後輩となる卒業生と職場等で接する機会がありましたら、ご指導等宜しくお願ひ申し上げます。

進学

学科	進路先
機械科	東京国際大学
	千葉工業大学
	日本大学
	テクノアカデミー-郡山職業能力開発短期大学校
	仙台医療技術専門学校
	ホンダテクニカルカレッジ関東
	国際メディカルテクノロジー専門学校
	国際情報工科大学校
	太田医療技術専門学校
	東日本航空専門学校
日本工学院八王子専門学校	
福島県理工専門学校	
文化服装学院 東京校	
電気科	日本大学
	国際情報工科大学校
	専門学校東京アナウンス学院
電子科	北海道工業大学
	福島学院大学
	日本大学
	立正大学
	ケイセンビジネス公務員カレッジ
	仙台保健福祉専門学校
	トヨタ東京自動車大学校
	ホンダテクニカルカレッジ関東
	国際ビューティ・ファッション専門学校
	東北電子専門学校
東北文化学園専門学校	
福島福祉専門学校	
福島県理工専門学校	

平成24年1月15日現在

学科	進路先
情報技術科	福島大学
	茨城大学
	会津大学
	仙台大学
	日本大学
	千葉工業大学
	職業能力開発総合大学校
	郡山情報ビジネス専門学校
	専門学校HAL東京
	東北電子専門学校
郡山健康科学専門学校	
国際ビューティ・ファッション専門学校	
長野医療技術専門学校	
建築科	日本大学
	仙台大学
	関東学園大学
	東北芸術工科大学
	東京工科大学
	関東職業能力開発大学校
	JAPANサッカーカレッジ
	国際情報工科大学校
	東放学園専門学校
	山形大学
日本大学	
WIZ国際情報工科大学校	
ケイセンビジネス公務員カレッジ	
上尾中央看護専門学校	
専門学校東京アナウンス学院	
太田看護専門学校	
東日本航空専門学校	
東北電子専門学校	
日本工学院八王子専門学校	
化学工学科	

進路内定状況

平成24年1月15日現在 ()は女子内数

科・組	機械科1組	機械科2組	電気科	電子科	情報技術科	建築科	化学工学科	全体	
在籍数	39 (0)	39 (0)	40 (1)	41 (2)	38 (4)	39 (4)	39 (7)	275 (18)	
就職希望者数	34 (0)	29 (0)	31 (0)	25 (0)	13 (1)	21 (3)	25 (5)	178 (9)	
就職内定数	県内	18 (0)	18 (0)	20 (0)	13 (0)	8 (1)	19 (3)	104 (5)	
	県外	12 (0)	10 (0)	9 (0)	9 (0)	3 (0)	11 (2)	3 (2)	57 (4)
公務員	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	7 (0)	
緑放・自営等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	
合計	32 (0)	29 (0)	30 (0)	24 (0)	12 (1)	21 (3)	23 (5)	171 (9)	
就職未定者数	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	7 (0)	
進学希望者数	5 (0)	10 (0)	8 (1)	16 (2)	25 (3)	16 (1)	14 (2)	94 (9)	
進学合格者数	大学	3 (0)	0 (0)	5 (0)	5 (0)	18 (2)	9 (1)	4 (0)	44 (3)
	短大	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
訓練校等	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	6 (0)	
私立専門	2 (0)	9 (0)	2 (1)	10 (2)	6 (1)	3 (0)	9 (2)	41 (6)	
合計	5 (0)	10 (0)	7 (1)	16 (2)	25 (3)	16 (1)	13 (2)	92 (9)	
進学未定者数	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	
その他	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	
総計	39 (0)	39 (0)	40 (1)	41 (2)	38 (4)	39 (4)	39 (7)	275 (18)	

産業別内定状況

科	機械		電気		電子		情報技術		建築		化学工学		合計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
農業01														
建設06~08			6	2	1				8	9			15	11
製造09~32	25	17	8	3	13	7	2	2	1	1	16	2	65	32
電気ガス33~36					1	1							1	2
情報通信37~41			1				2						2	0
運輸通信42~48	2	2		1							1		3	3
卸・小売49~50	4	5	4	2			2	2			1		11	9
金融・保険61~67													0	0
不動産業68~69				1						1			1	1
飲食・宿泊70~72													0	0
医療・福祉73~75													0	0
教育・学習支援業76~77			1										0	1
複合サービス事業78~79										1			0	1
サービス業80~94	1		2				1				1	1	5	1
公務95~96	3		1		1		1				1		7	0
分類不能の産業99													0	0
合計	35	26	22	8	16	8	8	4	9	12	20	3	110	61

平成22年度 決算報告

1 収入総額 4,159,288円 2 支出総額 3,629,936円 3 差引残額 529,352円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	増減額	備考
繰越金	265,964	265,964	0	平成21年度からの繰越金
入会金	1,674,000	1,674,000	0	入学生279人×¥6,000
会費	1,644,000	1,638,000	△ 6,000	卒業生273人×¥6,000
会誌広告料	240,000	179,895	△ 60,105	9社
一般寄付	270,000	401,180	131,180	
雑収入	336	249	△87	預金利息
合計	4,094,300	4,159,288	64,988	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	残額	備考
基本金	331,800	331,200	600	入会金・会費総額の1割
会議費	420,000	285,300	134,700	三役会 幹事会
事務費	50,000	720	49,280	事務用品等
慶弔費	70,000	9,213	60,787	香典等
通信費	1,480,000	1,436,550	43,450	会報(61号)発送費等
旅費	130,000	95,220	34,780	本部 東京 日立 水戸
会誌編集費	680,000	668,640	11,360	会誌(61号)印刷
渉外費	60,000	58,300	1,700	関係機関との交渉諸費
卒業生諸費	200,000	196,790	3,210	卒業記念品 会長賞
事務局費	60,000	0	60,000	事務局会費
北嶺祭	50,000	50,000	0	学校祭補助
支部助成金	130,000	130,000	0	東京 日立 水戸
学校案内助成	30,000	28,140	1,860	学校案内印刷
総会費	350,000	339,863	10,137	総会補助
予備費	52,500	0	52,500	
合計	4,094,300	3,629,936	464,364	

3. 差引残額¥529,352 は次年度へ繰り越します。

平成22年度 基本金報告

定期預金(～21年度)	5,280,072 円	定期預金
旧企業内支部寄付金	733,755 円	定期預金
平成22年度基本金	331,200 円	定期預金
合計	6,345,027 円	

平成22年度会計監査報告

平成23年4月9日の監査の結果、異常のないことを認めます。

会計監査 加藤 和 大

平成22年度 会務報告

年月	行事名	内容等	場所
H22 4. 9	入学式	会長、副会長、出席	学校
17	第1回 幹事会	役員顔合わせ 定期総会について	ホテルハマツ
5. 14	第1回 三役会	定期総会について	直雅
5. 21	第2回 幹事会	定期総会について	龍宮城
6. 26	定期総会		郡山ビューホテル
7. 3	日立支部総会	会長、校長、事務局 計3名出席	日立市
9. 3	第2回 三役会	定期総会決算報告および反省 今後の活動について	月亭
10. 1	第3回 幹事会	定期総会決算報告および反省 今後の活動について	郡山ビューホテル
12. 1	第4回 幹事会	今後の活動について (平成23年度定期総会同窓会報第61号について)	ホテルハマツ
H23 2. 26	同窓会報61号発行		
28	同窓会入会式	顧問、会長、副会長 出席	学校
3. 1	平成22年度卒業式	会長、副会長 出席	学校
下旬	同窓会報61号発送		
4. 9	会計監査	平成22年度会計監査	龍宮城

平成22年度までの卒業生総数

福島県立郡山工業高等学校 昭和19年4月～昭和52年3月	福島県立郡山西工業高等学校 昭和38年4月～昭和52年3月	福島県立郡山北工業高等学校 昭和52年4月～平成23年3月
全日制 機械科 2,570名 電気科 852名 電子科 741名 建築科 1,114名 工業化学科 565名 定時制 機械科 357名 電気科 222名 建設科 140名 産業科 74名	全日制 機械科 1,114名 電気科 1,059名 化学工学科 999名	全日制 機械科 3,573名 電気科 2,397名 電子科 1,345名 情報技術科 1,272名 建築科 1,346名 環境システム科 501名 化学工学科 2,379名 工業化学科 83名 定時制(平成14年3月開課程) 工業科 167名 機械科 207名 電気科 184名 建設科 32名
小計 6,635名	小計 3,172名	小計 13,486名
合計 23,293名		

職員異動報告 (平成23年度)

転入者

No.	氏名	教科等	前任校
1	佐藤 和紀	校長	川俣高校
2	井関 和明	教頭	新地高校
3	大内 利康	国語	田村高校
4	橋本文子	国語	須賀川桐陽高校
5	鈴木 優香	社会	新採用
6	星 光行	社会	安積高校
7	高橋 幹美	数学	郡山東高校
8	久住 貴紀	理科	新採用
9	田中 俊輔	理科	白河旭高校
10	水野 英暢	保健体育	明鏡中学校
11	平田 利文	機械	清陵情報高校
12	小林 稔	機械	福島工業高校
13	浜津 俊明	機械	白河実業高校
14	角田 昌章	機械	会津工業高校
15	矢部 重光	電子	清陵情報高校
16	鈴木 哲	情報技術	会津工業高校
17	西郷 敏次	情報技術	石川養護学校
18	鈴木 康生	建築	会津工業高校
19	大堀 昌造	事務長	いわき海浜自然の家
20	本田 千秋	事務	安積高校
21	吉田 健一	事務	石川高校
22	渡辺 千尋	事務	あさか開成高校
23	有賀 由佳	購買	

転退職者

No.	氏名	教科等	転出先
1	兼田 信男	校長	退職
2	藤田 登	教頭	退職
3	大森 茂信	国語	退職
4	佐藤 恭子	社会	退職
5	田母神三知夫	建築	退職(北工)
6	大越 忠士	建築	退職(福島工業)
7	伊藤 明子	情報技術	退職(会津工業)
8	村越 宗平	理科	退職
9	渡邊 美穂	保健体育	退職(学法石川)
10	浅尾 哲哉	国語	郡山商業高校
11	小椋 山 淳	数学	川口高校
12	添田 浩幸	理科	田村高校
13	大原 春夫	機械	清陵情報高校
14	阿部 文康	機械	福島工業高校
15	佐藤 泰仙	機械	川俣高校
16	永山 広克	機械	教育センター
17	佐藤 孝則	情報技術	二本松工業高校
18	柳沼 善久	情報技術	清陵情報高校
19	飯野 俊	事務長	福島東高校
20	宮野 千春	事務	二本松土木事務所
21	相良 正行	事務	あさか開成高校
22	広瀬 美代子	購買	退職

平成22年度 新会員報告

科	人数
機械科	77名
電気科	38名
電子科	40名
情報技術科	39名
建築科	39名
化学工学科	40名
合計	273名



本格派中国料理
龍宮城
代表取締役社長 橋本 正喜
(昭和42年度機械科卒)

安積店/〒963-0107 郡山市安積4丁目38
TEL(024)946-3171 FAX(024)946-3107
西/内店/〒963-8022 郡山市西/内1-13-9
TEL(024)939-4649 FAX(024)939-4655
http://www.ryugujyo.jp
E-mail info@ryugujyo.jp

●送迎バスもありますのでご相談下さい。

平成23年度 同窓会役員名簿

Table with columns: 役職, 氏名, 勤務先名, 卒校, 年度, 科. Lists members of the alumni association including roles like 顧問, 会長, 幹事, etc.

Table listing members of various departments: 運動部常任幹事, サッカー部幹事, ソフトテニス部幹事, etc.

Table listing members of the 支部 (Branches) including 支部長, 副支部長, and other roles.

Table listing members of the クラス代表幹事 (Class Representative Officers) for H18, H19, H20, H21, and H22.

Table listing members of the 同窓会支部長 (Alumni Association Branch Chiefs) for 東京, 日立, and 水戸.

Table listing members of the 同窓会事務局 (Alumni Association Secretariat) including 事務局長, 事務局長次, 会計, etc.

平成23年度 一般寄付者名

ご寄付ありがとうございました

敬称略 あいうえお順

Table listing names and addresses of general donors, organized by surname (あ, い, う, え, お).

H24.1月末現在

一般寄付のお礼とお願い

Text explaining the purpose of general donations, how they are used for association activities, and requests for future contributions.

株式会社 東北セイワ

代表取締役 森田 明孝. 本社/福島県郡山市堤三丁目186番地. TEL 024-952-8355 FAX 024-952-8377

ビル総合管理, 冷暖房機器保守管理, 工事, 建築物設備管理保全業務, 空調機器保守管理, 工事, etc.

フレンドホーム 正しい家づくり. 通気断熱WB工法, 冷暖房設備工事・新築・リフォーム

SHIN SAN 株式会社 新産. 代表取締役 二瓶 剛一. 7963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字石堂4. TEL (024) 922-4815 FAX (024) 934-1430

